

令和3年度 群馬県幼稚園教育課程等研究協議会

～共通協議主題～

新型コロナウイルス感染症対策にも 配慮した幼稚園の活動

『幼児の学びをとめない実践』

(認)すぎの子幼稚園

R3.10.25(月)

【研究・協議の視点】

- 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら
幼児を健やかに育む活動の工夫が求められている。
- 各地域の感染状況等を踏まえた感染症対策
を講じつつ、幼児にとって必要な体験を確保
するための活動の工夫等について考える。

本日の話の内容

- 園概要と、昨年3月から、本園がとった対応
- 園での感染対策に対する考え方
- 子どもの学び(体験活動)の機会を奪わない実践

園概要

- (学) 峰学園 (認) すぎの子幼稚園
- (社) 峰悠会 (認) おおぞら保育園



本園がとった対応の変化

絶対に園内で、感染させない為の対策

- 3月 卒園式の縮小
- 4月 入園式の縮小
- 4～5月 登園自粛(8～9割が自粛)

子どもの育ち・学びの機会を奪わない感染対策への変更

- 6月 保育再開(クラス座席を対面→スクール形式、黙食)
- 7月 戸外活動の更なる充実を目指す
プール、年長児お泊まり保育(例年実施)
- 9月 保護者参加行事は我慢(親子旅行、敬老行事)
- 10月 運動会(市のグラウンドで)
- 11月 駅伝大会、発表会(2月まで学年ごと分散)
- 12月 サーキット活動
- 1月 サッカー教室(新規に創設)
- 2月 マラソン大会(新規に創設)、餅つき(揚げ餅に)

例年通り、保護者の参加も含めた例年通りの教育活動への回帰

- 4月 ~

感染対策の変容

- 絶対に感染させない為に、強い感染対策（自粛要請含）



- 子どもの学び・育ちの機会を奪わない



- 保育再開後は、感染予防を3点に絞り、徹底して実践した。

- ①外部との接触（外来者や保護者の参観等）
- ②飲食を伴う環境（給食・おやつ時の衛生環境）
- ③子供たちにマスクの強要はしない



- 子どもの強い身体作り

昨年度の中央審議会からの アンケート回答

- 1 所属先について： 幼保連携型認定こども園
- 2 動画視聴により、役に立つ情報や示唆は得られましたか：__②
①十分得られた ②おおむね得られた ③あまり得られなかった
- 3 御意見・御感想等がありましたら、御記入ください
ICT化を子供の教育活動の中で多用することに違和感を感じる
環境を通して行う幼児教育にとって「実体験」が中心になくてはならない
その補完として部分的に取り入れることは必要と思われるが
それが中心になっていくことは危険と考える
教職員の事務作業軽減や、ZOOM研修等ではおおいに導入すべきと考える

4. 新型コロナウイルス感染症対策を考慮した教育活動

- 4～6月、3密を避け感染予防を優先するあまり「学びの機会」が犠牲になることに徐々に危機感を感じた（中止：入園式、保育参観、家族ふれあいデー、バザー、他）。子供たちにとって「今は我慢」が後々の育ちに多大な影響が生じる恐れを感じ、感染予防を目的にした過度な教育の機会の制限は、子どもの育ちに危険と考え、可能な限り教育活動を計画通り実施することを園内で協議し共通理解のもと、保護者にも説明・同意を得て例年通りの教育活動を実践した。
- 特に、年長児にとってのこの一年間は、充実期を迎え、在園期間中、実体験活動が多く、最も大切な一年間であり、安易に教育活動を縮小・中止はすべきでないと、感染予防をしながら例年通り実践してきた（お泊まり保育、調理実習、園外保育、駅伝大会、もちつき、マラソン大会、生活発表会、他）
- ただし、感染予防を3点に絞り、徹底して実践した。
 - ①外部との接触（外来者や保護者の参観等）
 - ②飲食を伴う環境（給食・おやつ時の衛生環境）
 - ③子供たちにマスクの強要はしない
- 特に運動の機会は、免疫力や抵抗力を強化する機会、最も重要と考え、量的にも、例年以上にその機会を増やした。その結果、4～5月の2ヶ月間、登園自粛期間があったにもかかわらず、11月に毎年実施している「体力測定」の結果、すべての項目で昨年度の数値を上回る成果が出ており、風邪や熱で欠席する割合も減っている。
- また、食生活の改善による体質改善をめざし、園内で作る米・野菜（給食の食材としても利用）の土壌改良を目的に園内で有機肥料製造を教育活動として始めた。毎日の給食残飯を米ぬかと混ぜ寝かし田畑に戻し、近所の竹藪を伐採し炭にして田畑に戻す作業を子供たちと共に行い無農薬で栄養価の高い食材の栽培を実践し、体の内面からも、健康な身体作りを目指している。今年から米も玄米として提供をしている。
- 制限したり、回避したりするだけでなく、同時に強い身体作りを目指していく方向も教育方針として、これからも実践しつづけていく。

- 5 運営その他お気付きのこと、御意見・御感想等がありましたら、御記入ください。
- 群馬県は例年、多くの研修が主催されているが、本年度は、そのほとんどがネット研修か中止となった。
 - しかしながら、ネット環境や端末に不足の園が多く、園内での視聴に不自由を感じている。国の補助事業に「ICT化環境整備補助事業」が予算化されているが、事業実施の判断は各市町村に委ねられ、当園が属する市町村は予算化されておらず、整備も全く進まない。
 - 「質の向上」の機会を奪わないでほしい

















認定こども園 すぎの子幼稚園
おおぞら 幼保園

実施日 令和2年11月4日
対象者 年長男子 42名 年長女子 27名

令和2年1月吉日
こども 体育 研究所
担当講師 千葉 龍太

◎測定の結果◎

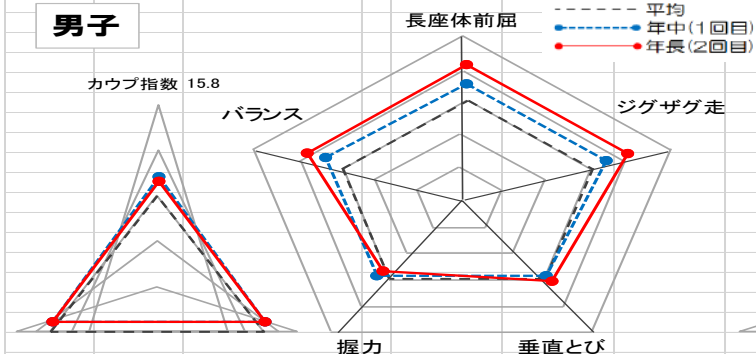
『本園男子の平均値』

身長 cm	体重 kg	長座体前屈 cm	垂直とび cm	ジグザグ走 sec	バランス sec	握力 kg
前回 112.0	105.1 17.4	前回 11.6	7.0 23.0	7.0 19.7 8.1	9.5 4.3 7.6	6.4 7.9

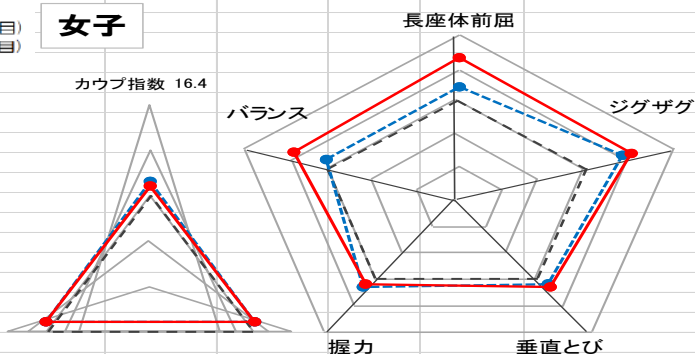
『本園女子の平均値』

身長 cm	体重 kg	長座体前屈 cm	垂直とび cm	ジグザグ走 sec	バランス sec	握力 kg
前回 113.7	106.9 18.3	前回 14.5	9.3 22.6	9.3 19.6 8.6	9.6 4.4 9.1	6.1 7.9

男子



女子



◎テストの結果について◎

今回の運動能力適性テストの結果は上記の通りとなった。その結果をレーダーチャートに表し、全国実施園の平均値を標準値として昨年度の年中児に測定した結果を基に作成したものである。幼児期は、運動能力の表れである**身体活動面**（運動面）と緊張ややる気等の**精神活動面**（心の面）が密接に関連していると言われている。

男女共にどの種目においても全国実施園の平均を上回る結果が見られる。特に【長座体前屈（柔軟性）：融通性、緊張のしやすさ】、【バランス（平衡感覚）：集中力、落ち着き】と【ジグザグ走（敏捷性）：理解力・判断力】が全国実施園の平均値および昨年度よりも高い値を示している。

今年度、世界的未曾有の新型コロナウイルスの感染が広がる中、様々な人々が頭を悩ませてきた。こども体育研究所は園と一緒に模索し、感染症対策を考えながら体育活動を始めた。また、各学年約月1回の体育活動だけでなく、理事長先生、園長先生をはじめ、担任の先生方は日頃、子ども達の**より良い成長を第一**に考え、工夫して保育の中で運動遊び、行事を取り組んだ結果が表れているのではないかと考える。

園内では**上下肢を過渡なく動かす遊具が多く、それをコース遊びとして取り組んでいる**。昨年度まで、怖がっていた子どもが多かった「**タイヤ滑り**」はバランス力、握力、高さ開隔が大きく伸びる遊具であり、「**鉄棒（位置）**」は園の中央に位置する事で、自然と子ども達の目に触れ、取り組む機会が増えている（※多くの園では鉄棒が端に位置する事が多い）。多くの運動経験、運動に触れる環境が整備されている事にもおける結果である。

また、子ども達に考えさせる先生方の声掛けにより、**他者を認める経験が増え、柔軟な思考が融通性に繋がっている**と考えられる。他にも、広い園庭、限定されたボールの双方の環境下で飛べっこやチームゲームを取り組む事で持久力だけでなく、**敏捷性、理解力、判断力**の向上に繋がっている。

しかし、これはあくまでも、**平均値から見られる傾向である**。したがって、個人を見ても様々な傾向が見られ、跳び箱運動の開脚跳びが跳べる、跳べないだけではなく、**精神的側面も傾向として捉えてほしい**。

今回お遊ばした測定個人カードは成長過程において、発育・発達には月齢差、その日の気持持ち等においても影響している事を踏まえ、**お子さんの運動能力を決定づけるものではない**。また、子どもが行っていく「運動」や「スポーツ」は、からの発達時期、発達年齢において適時性がある。**今の時期は、ひとつの運動ばかり行うのではなく、色々な運動を経験し、身体を動かす「楽しさ」や「喜び」に気づいていく事が大切**であり、運動技術（できる、できない）だけではなく、子ども達自身が**前向きに意欲的に取り組む事が必要不可欠**と考えます。特に来年度、子ども達は小学生となり環境が大きく変わる中、体育活動で【得意・不得意】によって【やる・やらない】を決めてしまっている活動の幅や将来の幅が狭まる。したがって、今後も保育の中で園の先生方と連携をとり、体育活動で意欲的に身体を動かすように楽しさ、嬉しさ、新発見、あきらめない力が高まるよう子ども達と関わっていく。子ども達は着実に成長しているのをご家庭では、**一つ一つの成長を認め、褒める事を増やしてほしい**。

柔軟性（長座体前屈）→融通性、緊張のしやすさ	平行感覚（棒上片足バランス）→集中力、おちつき
瞬発力（垂直跳び）→積極性、意欲	筋力（握力）→粘り強さ、意思の強さ
敏捷性（ジグザグ走）→理解力、判断力	

◎運動能力 5 段階基準表◎

年長男子

男子	1	2	3	4	5
身長	103.9以下	104.0~108.9	109.0~114.9	115.0~119.9	120.0以上
体重	15.5以下	15.6~18.1	18.2~21.4	21.5~24.0	24.1以上
長座体前屈	-4以下	-3~2	3~8	9~13	14以上
垂直とび	13以下	14~18	19~23	24~28	29以上
ジグザグ走	10.8以下	10.7~17.7	9.7~8.7	8.6~7.7	7.6以上
棒上片足バランス	1.0以下	1.1~2.7	2.8~5.4	5.5~7.6	7.7以上
握力	4.9以下	5.0~6.7	6.8~9.0	9.1~10.9	11.0以上

年長女子

女子	1	2	3	4	5
身長	102.8以下	102.9~107.8	107.9~113.9	114.0~118.9	119.0以上
体重	15.2以下	15.3~17.7	17.8~20.8	20.9~23.3	23.4以上
長座体前屈	-1以下	0~4	5~10	11~16	17以上
垂直とび	12以下	13~17	18~22	23~26	27以上
ジグザグ走	11.2以下	11.1~10.2	10.1~9.1	9.0~8.1	8.0以上
棒上片足バランス	1.0以下	1.1~2.9	3.0~5.8	5.9~8.1	8.2以上
握力	4.0以下	4.1~5.9	6.0~7.9	8.0~9.9	10.0以上

※基準表は当研究所独自の調査に基づいたものです。



まとめ

- 子どもの将来にわたる重要な育ちの時期を
保証する「子どもの育ち」を中心とした考え
- 消毒漬けによる(無菌状態)身体への弊害
- 「感染しても重症化しない」ために